○【社会実験】日韓大学生交流プログラム

１　日時・場所

令和８年７月６日（月）午前１０時から午後４時まで

午前：アイトピアホール・石巻市中心市街地・中瀬公園周辺　午後：石巻専修大学

２　背景と目的

中瀬公園では、市民や民間企業と連携しながら、公園のより良い利活用や維持管理のあり方について検討が進められており、社会実験やエリアデザイン、管理棟基本計画の検討が行われている。

既存の市民ワークショップでは、「こんな公園になったらいいな」「こんな使い方ができたら楽しそう」という市民の声を集めることが重視されている。

本プログラムでは、この流れを日韓大学生交流版として展開し、若者、来訪者、外国人、地域住民の視点から中瀬公園の未来の使い方を考える。

午前は、4 つのテーマに沿って現地理解と観察を行い、午後は 12 グループが各テーマ 3 グループずつ提案づくりを行う。最後に石巻市担当部署および関係者から講評をいただくことで、学生の学びと実際のまちづくりを接続する。

３　内容

時間	内容	場所
10:00〜10:10	本日のプログラム説明	アイトピアホール
10:10〜10:30	石巻のまちづくりについて	
10:30〜10:45	中瀬公園の現状と官民連携の取組	
10:45〜11:00	フィールドワークの説明等	
11:00〜12:00	テーマ別フィールドワーク	中瀬公園周辺
12:00〜13:00	昼食	いしのまき元気いちば
13:00〜14:00	移動・休憩	石巻専修大学へ移動
14:00〜14:15	ＷＳの目的/進め方説明	石巻専修大学学生ホール
14:15〜15:40	ＷＳ ①午前の気づき共有 ②アイデア出し＆整理 ③提案書作成 ④グループ発表	
15:40〜15:55	講評	
15:55〜16:00	まとめ・閉会	

４　参加者

韓国大学生訪日団 64 名、庄子ゼミ 21 名、石巻専修大学留学生 数名

石巻市等関係者

５　フィールドワーク・ワークショップによる提案の概要（主な感想や意見）

すべての提案に共通していたのは、中瀬公園を「震災の記憶を希望の光に変え、多世代・多国籍の人々が混ざり合う（巻き込む）活気ある場所」にしたいという強い想いでした。その実現のためには、行政との協力、予算の確保、SNS を活用した広報、そして大学生や地域住民の主体的な関わりが必要であるとされていました。

１）自然と地域資源を活かした体験

○中瀬の自然環境や石巻独自の資源を活かした体験を提案していました。

①養蜂と蜂蜜：複数のグループが「養蜂」を核とした公園づくりを提案していました。蜂蜜の採取体験、ハチのデザインの自転車やテント、蜂蜜を使ったデザート（アイスクリーム等）の販売を通じて、地域のブランド化を目指しています。

②食の体験：石巻の特産品を使った BBQ やシーフード・グリル、さらには「火」を扱う経験としてのパン作り（マキパン）など、五感で楽しむ食の場が想定されています。

③景観の活用：川沿いの立地を活かした船の形のカフェや、展望台、夜間のライトアップによるフォトスポットの設置が提案されています。

２）「楽しみ」ながら学ぶ防災・減災

○単なる公園ではなく、震災の教訓を未来へ繋ぐ「防災パーク」としての側面が強調されていました。

①遊び×防災：「仮面ライダー」をモチーフにした防災教室やサバイバルゲーム、避難タワーの建設など、子供たちが遊びの中で自然に防災意識を持てる工夫が提案されています。

②日常の中の訓練：パン作りのために薪で火を起こす経験を災害時の技術に繋げたり、キャンプ場としての機能を備えたりすることで、日常と非日常（災害時）を繋いでいます。

③情報の可視化：デジタルサイネージによる地震・天候情報の提供や、避難経路の明確な案内板の設置など、ハード・ソフト両面での安全対策が重視されています。

３）多様な人々が集う観光と交流の拠点

○地元住民だけでなく、若者や観光客、外国人を惹きつけるための具体的なアイデアが出されました。

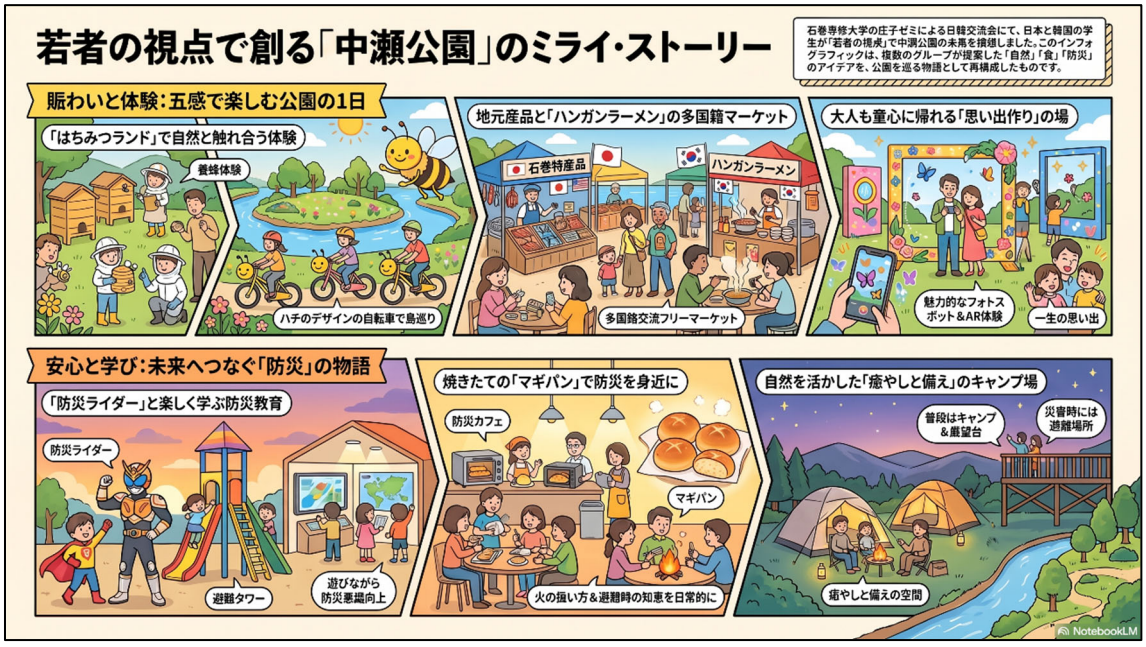
①アクティビティと宿泊：手軽に楽しめる「ワンデイ・グランピング」や、島を一周できる自転車のレンタル、AR（ポケモン GO など）を活用したゾーン作りなどが提案されています。

②イベントと経済循環：定期的なフリーマーケットの開催や、地域の特産品販売、石巻漫画館との提携（スタンプラリーや割引）による周辺地域との回遊性の向上を目指しています。

③グローバルな視点：外国人観光客も安心して楽しめるよう、多言語のハザードマップや QR コード案内、留学生によるガイドツアーの実施など、国籍を問わず「故郷」のように感じられる場所作りが提案されています。

【フィールドワーク・ワークショップによる提案（事務局まとめ）】





6　開催状況

＜アイトピアホール＞



＜石巻専修大学学生ホール＞

